



日本百名山 登山日記

歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です



vol.37 御嶽山(日本百名山 47/100)

御嶽山(標高3,067m)、自然の怖さを肌で感じ、悲しみが心の奥底から湧き上がってきた山である。登山したのは一昨年の7月ですが、今までコラムを書くことが出来ずにいました。

新年早々、少し暗い書き出しになってしまいましたが、それ程までに登山者にとっての御嶽山は特別な山であり、また、実際に登ることにより、とても他人事とは思えない感覚に陥ってしまいました。

御嶽山の噴火は、2014年(平成26年)9月27日11時52分に発生し、火口付近に居合わせた登山者ら58名が死亡、行方不明は5名と日本における戦後最悪の火山災害となっています。実際、当日は噴火警戒レベル1の段階で噴火したことなど様々な要因も重なり、被害が拡大したと言われています。

東京大学地震研究所と気象庁によれば、火口から約1キロ圏内では、直径数cmから60cmの大きさの噴石が最大時速350キロから720キロで雨のように降り注いだと見られていて、これらの直撃を受ければ致命傷となり、近くに落ちて跳ね返ってきたり飛び散ったりしたものを受けても重傷となる可能性があったとされています。

また、火口から約500メートルの範囲では4メートル四方に10個以上の噴石が集中落下しており、これだけ激しいとヘルメットがあっても防ぎきれなかっただろうとも言われ、負傷してその場から動けず衰弱したり、意識を失っている間に高温となった火山灰を吸い込み、呼吸困難による窒息を起こした可能性も指摘されています。

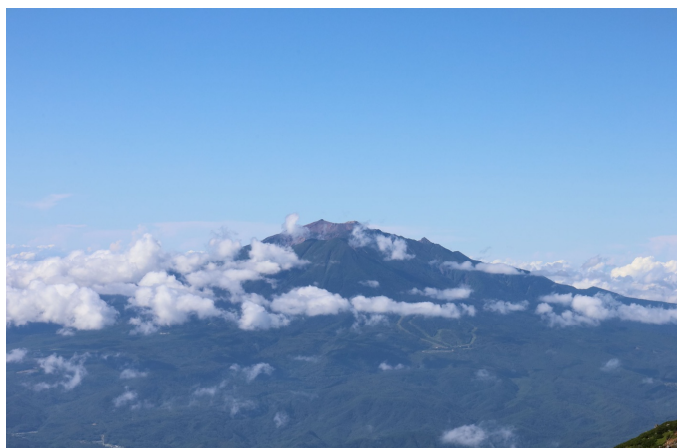


女人堂(八合目付近)から御嶽山を見る、山頂はあいにくガスの中

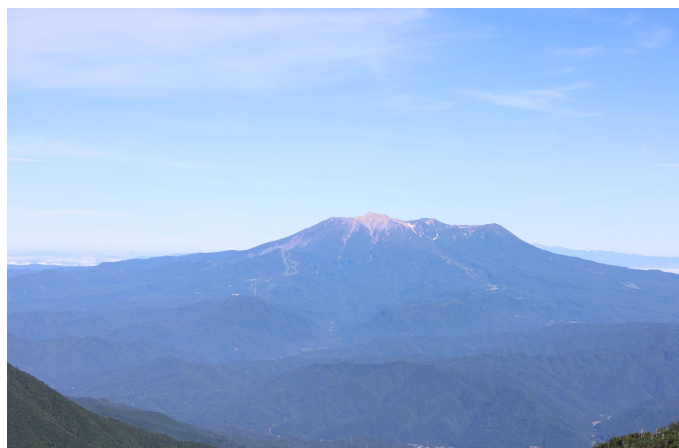
御嶽山は、長野県木曽郡と岐阜県下呂市・高山市にまたがる複合成層火山であり、大きな裾野を広げる独立峰でもあります。日本の山の中では14番目に標高が高く、独立峰としてみると富士山に次いで二番目に高い山で、標高3,000mを超える山としては日本で最も西に位置しています。

古くから信仰の対象の山であり、一般的には富士山、白山、立山で日本三霊山と言われていますが、このうちの白山又は立山を御嶽山と入れ替えて三霊山とする説もあります。

日本百名山の中で深田久弥もこのように語っています。「富士山、鳥海山、立山、石鎚山など、古くから宗教登山が盛んであったが、現在では一般登山の中に解消されている。信仰登山の組織と戒律と風俗を今でも濃厚に保っているのは、御嶽だけだろう。夏に表口の王滝や黒沢から登って行くと、道が白く見えるくらい白装束の信者が続いている。それが子供から爺さん婆さんに及んでいる。彼らは登山に興味を持っているわけではない。私の知っているある下町のお茶屋のおかみさんは、およそ山に縁のない人だが、毎年オンタケサンにはお詣りを書かさない。」原文まま



北アルプス乗鞍岳（剣ヶ峰）から見る御嶽山



中央アルプス将基頭山から見る御嶽山



出典: ヤママップ地図

御嶽山は登山レベルとすれば初心者向けの登りやすい山ですが、活火山であることからいつでも登れるわけではありません。入山は噴火警戒レベルに左右されますし、登山期間も厳しく規定されています。年によって入山できる期間は変わりますが、概ね最高峰の剣ヶ峰は毎年7月1日～10月中旬頃となっており、火口付近の通行にはヘルメットの着用が義務づけられています。



登山データ：距離 8.8km 累積標高上り 1,246m 登山区分 日帰り（ヤマップのデータを転記）

では、今回の山行について報告します。

御嶽山は、長野県に入る手前の岐阜県中津川インターで中央道を降り、そこから木曽川沿いを国道19号および一般道で約2時間かけて向かいます。北アルプスや南アルプス、中央アルプスなどの登山口までへの移動に比べ、恵那山トンネル（中央アルプスを抜ける長いトンネル）を通過しないで済むというだけで、精神的に非常に近く感じます。

自宅から約10時間半で御嶽山の登山口の一つである「中の湯登山口」に到着です。まだまだ時間が早かったためか、そこそこ広い駐車場には私の車以外はあと一台だけでした。

翌朝はそれほど早くからスタートするつもりはなかったのですが、特にすることも無いためいつものようにコンビニで買った弁当で晩御飯とし、さっさと寝床を作り車中泊します。

ちなみにここまでの道は当然ながら山道で狭く、グネグネの道。登山口までの道はどこも同じような感じではあるのですが、御嶽山はさすがに信仰の山、道中、あちらこちらにこれでもかと言うぐらいの神社や信仰の対象物（石碑や石仏など）があり、ちょっとビビりました。興味がある方は、グーグルで県道473号線（木曽郡木曽町三岳屋敷野2841付近から登山口方向を）を見てください。さて、翌日は午前3時に起床します。

まあ、毎度のことながら起きてびっくりなのですが、駐車場は7割方埋まっていた。他の車が入ってきてもまったく目を覚まさないで、自分の神経を疑ってしまいます。（と言うか慣れです）

午前4時1分、まだまだ暗い中、ヘッドランプを付けて登山スタートです。しかしながら、1時間も経たずにすぐに明るくなりました。最初の目的地は七合目に位置する行場山荘です。実は行場山荘までは、ロープウェイがあり、多くの方はこのロープウェイを使って登ってこられます。ただ、比高差は約300m程度、ロープウェイを使ってもあまりメリットは無く、逆に時間的制約は朝早い時間帯から登山したい自分にとってはデメリットでしかありません。



登山口駐車場の様子



登山口、まだまだ暗い中スタート



すぐに明るくなりました



ずっとこのバラバラな階段はキツイ

午前4時45分、行場山荘に到着、休憩をせずに通過し、次の目的地である八合目の女人堂を一気に目指します。樹林帯の中を歩くこと約45分、八合目の女人堂に到着です。

ここは森林限界をちょうど抜けた位置にあり、御嶽山の山頂方向そして雲海が見渡せます。スタートして僅か1時間半で標高は約2,500mとなり、絶景が見渡せる、歩行距離も短いので乗鞍岳と同様に初心者向けの3,000m峰だと思いました。

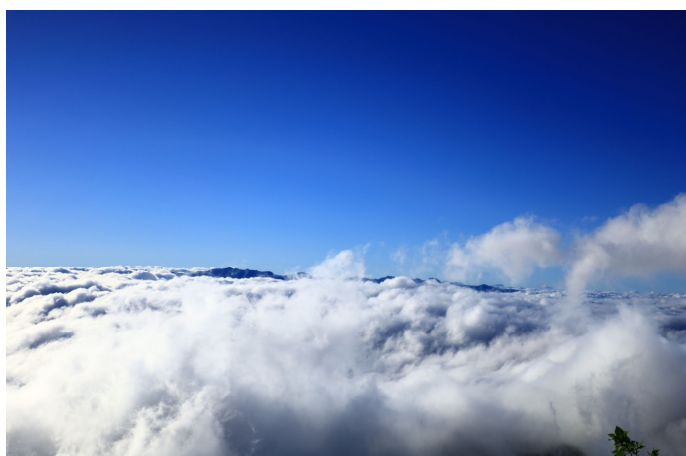
さて、女人堂で少し休憩していると、山頂方向には何やら怪しい雲が…これはどう見ても荒れる。案の定、九合目の石室山荘付近からガスと強風になってきたので、山荘で休憩がてら天候の回復を待ちます。しかしながら、しばらく待機しても天候は一向に回復しそうにない為、意を決して一気に山頂を目指す事にしました。山頂までの距離は約800m、標高差は240mで普段ならお気楽な感じで登るところですが、標高は既に2,800m以上、横殴りの暴風霧の中を上るのは精神的にきつい。しかも、あちらこちらに御嶽山噴火の爪痕やその復旧が見受けられ、気持ちは高ぶるところか逆に心が苦しくなっています。



八合目の女人堂



あちらこちらに鳥居、信仰の山です



雲海の中に中央アルプスが見えます



お地蔵様もあります



だんだんと天候が怪しく（上は九合目の石室山荘）



山頂までもう少し

午前7時30分、無事に最高峰である剣ヶ峰に到着です。周囲はガスガス強風で何も見えませんが、何とも言えない雰囲気漂います。じっくりとその雰囲気を感じたいところではありましたが、この状況では低体温症が怖いのですぐに下山することにしました。

本来の計画であれば、摩利支天山や飛騨頂上などを縦走し下山する予定でしたが、さすがにこのコンディションでは諦めざるを得ませんでした。

10時3分に無事下山、空を見上げると見事な青空です。ただ、山頂方向はずっと雲に覆われていました。



吹きっさらしの中を上っていきます



山頂直下には避難用のシェルターがあります



御嶽山噴火災害慰霊碑 “安らかに”



ここを上れば山頂（噴火後に整備されています）



御嶽神社 頂上奥社祈祷所



神社の新しさが逆に噴火の恐怖を感じさせます



物悲しい雰囲気、心が痛みます



御嶽山 頂上標

下山後は、いつものように日帰り温泉に入り、時間も早かったことからその日のうちに一気に帰宅しました（深夜に到着です）。

多くの犠牲者を出した御嶽山ですが、信仰の対象として古くから多くの人々に愛された山でもあります。自然の脅威の前では人間は無力ですが、そんな自然（御嶽山）だからこそ人々は畏敬の念を抱いてきたのだと思います。

私にとって御嶽山は、今まで登ったどの山よりも山岳信仰を一番肌身に感じた山でした。



下山するにつれて青空が見えてきます



駐車場付近は快晴（登山あるあるです）